

会報

創刊号

昭和53年1月 発行
発行者 早稻田ヨット
クラブ事務局
(米田 晴二)

W・Y・Cの

活性化

ワセダ・ヨットのOB諸兄に、力強いお知らせです。

理事会と、その事務局が七月をもちまして新発足致しました。今夏以来、数回の理事会が、事務局の精力的作業の上に開催されました。

その間の経緯は、OB諸氏のご想像通りのあれこれがありましたけれど、38年卒業の近藤光徳氏が事務局を編成し、会社から生まれつつ、大変な努力を重ねて下さり、その動きに呼応して、各年代のOB諸氏も良く動いて下さいました。

現在、組織された理事会の特徴は、各年代、特に若年に重点的に、うまく組織されており、数回の理事会も全員の手弁当、即ちその都度、会費を持ち寄り、真剣な討議を重ねている次第です。

別欄の理事会・事務局メンバーの内容をご活用いただき、皆さんの声、熱意を今後のWYC活動の力に集めてゆきたいと考えております。

又、理事会は、別項規約(案)にある如く、すべての会員が参加し、ご意見を

出していたける性格になっておりますので、皆さんの積極的な熱意あるご協力を期待しております。

クラブ役員紹介

会長	小沢信三郎
理事長	堀江 喜三
理事	22(経理担当) 横田 豊
	26(運営担当) 渡辺 禎夫
	29(ヨット部関係) 米田 晴二
	30 松本富士也
	31(総務担当) 杉山 博保
	32(経理担当) 山県 一郎
	33 清水米太郎
	34 山品賢二郎
	35(経理担当) 山田 康雄
	36 原田 弘
	37 原田 武
	38 出 基人
	39 浅野 博明
	40 大 興太郎
	41 森 昭
	42 岡戸 義一
	43 仙波 節男
	44 須藤 桂司
	45 北島 武夫
	46 菊地 浩明
	47 山田 徹夫

財政のピンチ

WYCの財政は目下どうにもならない状況にあります。

事務局は、毎日・毎月のヤリクリが分りすぎるので「緊縮」第一主義を唱えざるを得ません。然り、現在の大蔵省と同じです。しかし、理事会は大義・大義も唱えなければなりません。そのヤリクリがどうにもつかない現状です。理事会の運営は、参加者の会費(その都度の数円)でまかなっております。当面のWYC活動は、その連中からポツポツ集めている年会費でやっています。

この会報の印刷代・郵送料も、某氏らの寄附によってやっています。

学生達への応援も何も出来ない。仲間との連絡もまるで機能していない。当然です。より困る事は、学校当局との関係も、これでは、円滑を欠く様になる事です。現在大学当局との関係を、維持しているのは、各年代の、半ば私的努力によると言って良いでしょう。皆様にこの点

(注 数字は卒業年度)

事務局長	38	近藤 光徳
事務局長	52	川瀬 修平
	50	恒川 由巳
	49	三塚 正文
	48	杉井 謙治
事務局長	40	松島 弘行
	41	牛田 正宏
	41	小坂 順孝
	41	長沢 和彦

規約

ワセダ・ヨット・クラブには、各先輩もご存知の通り、何度も規約を制定しましたが、現在の実体に沿わなかったり、改正点が不明確になったりした事も事実です。

この為、今度理事会にて、新たに制定し直すことに致しました。その原案を別掲の通り作成しました。総会におはかりして発効致します。

この規約は総会において、決議されて発効し今後、皆様のご意見により、より充実してゆくべきものと思えます。

大学ヨットの現状

53年の部員数は20名です。諸先輩には随分と部員が少ないと思われるかも知れませんが、これでも早稲田は多い方なのです。毎年のことですがフレッシュマン入部段階ではかなりの員数ですが、格好の良さに憧れて入ってはみたものの金がかかり過ぎる、存外に厳しい等々の理由でだんだんとやめていきます。伝統の我がヨット部なればスポーツとしての厳しきには耐え得ても、経済的厳しさをどうにかしてもう少しでもやわらげられないものかと思いがくねっています。幸いにして今の一年生九名は健在で、面構えもよくなってきました。今後がたのしみ

です。

現在の保有艇数は稲竜(クルーザー)。救助艇。スナイプ(木造)七、FRP四。470級八。A級三。K16級二。ディセイラー二の計二十八艇。部員の頭数より艇数の方が多い状態です。

最近のレースは昨年一〇月の関東新人インカレ(於・葉山)では470級二位、スナイプ級八位、総合二位。また一二月の新人早慶戦では両クラスとも勝ちました。ところで今年の全日本インカレには関東で五位以上の成績を収めないと出場出来ません。部員一同この事実を率直に受けとめ出場権獲得に全力を傾注して励んでおります。先輩諸兄のご指導をお願い申し上げます。

ヨット部紹介

- 部長 矢頭 敏也先生
- 講師 29 安藤 一夫
- 監督 33 加藤 文生
- 主将 3年 庄島 政美
- 副将 " 北川 邦弘
- 主務 " 松下 政弘
- 学連 " 小川 寛樹
- 二年 七名
- 一年 九名

「稲龍」近況報告

「稲龍」も進水以来、早くも二年を経過し、その間、部員訓練、体育実技での使用をはじめ、NORCレースへの参加、日本一周等の活動を続けて参りました。

然し活動の主体が、学生訓練にある為、スケジューリング的に調整が難しく、仲間数多くのOB諸兄に参加・利用戴けていたとはいえぬ状態でありました。

此度、OB会内に稲龍委員会が設定されましたので、今後は委員会にて学生スケジュールと腕み合わせて、OB諸兄にどんなご利用戴く様、機会を作って行き度く考えておりますので積極的にご参加戴く様お願い申し上げます次第です。

さて、「稲龍」搭載のエンジンも、八年前の酷使の結果、新エンジンとの交換を余儀なくされておりましたが、小沢会長はじめ、OB会、関係OB諸氏のご尽力及びヤンマーシーガルのご厚意により、昨年末、ヤンマー五五馬力エンジンの寄贈を受け(本体及び部品一式約一七〇万円工事費別)取換工事も完了し、今年新エンジンを乗せてのスタートとなりました。

紙面を借りて、関係諸氏のご尽力に厚く御礼申し上げます。

尚「稲龍」スケジュールに関しては、小型艇のメインレースのスケジュールが未定の為、未だご連絡出来る段階ではありませんが、次回の会報にて連絡先と併せてご報告する予定にしております。

稲龍委員会紹介

- 委員長 頼 義人
- 委員 大矢木 一
- 早川 恒男
- 杉井 謙治
- (頼 義人)

第16回・早風会

早いものです。もう第16回を迎えました。昨年は11月27日三戸浜の小島合宿所において会員・OB・現役夫々多数が集って厳粛に、かつなごやかに開催されました。富士の雪はあくまでも白く、相模の海は青空に映えてさわやかでした。なつかしい諸君を偲んで交替に沖に出て菊の花を流しました。当日は早慶新人戦がありまして早稲田が快勝して、良いはなむけになりました。(今回の運営でも、杉山先輩の深くましい努力があったことを併せてお知らせ致します)

三戸浜小島

合宿所について

堀江 喜三

東京オリンピックを引金に高度成長時代に入り、東京湾沿岸一帯は工業地帯として大規模な理立が行われる様になり、から往年の湾内という面影はなくなり、出船入船の行き交う一つの大きな航路となつてしまひ、とてもセーリングするなど不可能な状況となった、したがって横浜のヨットハーバーは立退きを迫られて各大学ともその行先は一様に困つていった。

その頃私共には想像もなかった「早風」の遭難があり、無事故を日頃のスロガンにする我が早稲田も一挙に学生コ

ット界最大の悲惨事に巻き込まれたのは十五年前の昭和三十七年十一月の出来事である。

その遭難事故の收拾に一年間は遺族との調整とご理解を頂くことにOB諸兄華げ協力して頂いたおかげで、未だかつてない遺族とOB間の特別なきづなが芽生えて来た。

それは翌年早くも遺族の青柳さんから「早風号」の代替船の建造費用として計画予定の半額近いご寄附を頂いたこと始まり、更に一年置いてご遺族の小島さんから、「相模湾に面した海岸にある土地に、亡き息子を偲んで合宿所向きな建物を作ってお貸ししましょう」ということで、現在の三戸浜「小島合宿所」が出来た訳である。

ここは土地は広く海岸からも近いので艇の運搬が便利であること、又お風呂は高性能ボイラのため、寒い時でも「沈」を発見してから点火しても、ずぶ濡れの者が辿りつく迄に適温になっているという、まことに申し分のない合宿所である。時各大学から羨しがられたものである。

我々が無償でお借りしている三戸浜合宿所を唯甘えている許りでなく、学校当局にもお願いして何等かの対応策をたてる時期が来ているのではないだろうか。

X X